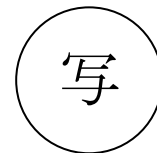


令和2年（2020年）8月20日開会

令和2年（2020年）第10回

茨木市教育委員会臨時会

会 議 録



茨木市教育委員会

◆ 令和2年8月20日（木）第10回教育委員会臨時会を上中条青少年センター青少年ホールで開催した。

◆ 出席委員

教 育 長	岡 田 祐 一
教育長職務代理者	武 内 由 紀 子
委 員	片 山 正 敏
委 員	篠 永 安 秀
委 員	堀 村 佳 奈 子

◆ 本委員会に出席した者

教 育 総 務 部 長	小 田 佐 衣 子
教 育 政 策 課 長	玉 谷 圭 太
学 校 教 育 部 長	加 藤 拓
学 校 教 育 推 進 課 長	青 木 次 郎
学 校 教 育 推 進 課 参 事	尾 崎 和 美

◆ 署名委員

委 員	堀 村 佳 奈 子
-----	-----------

(令和2年8月20日(木)、午後2時00分)

議事日程 (令和2年第10回茨木市教育委員会臨時会)

(於：上中条青少年センター 青少年ホール)

日程	議案番号	件名	摘要
1		会議時間の決定について	
2		会議録署名委員指名について	
3	27	令和3年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書 の採択について	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

(1 4 時 0 0 分 開 会)

岡田教育長

それでは、ただいまから令和2年第10回茨木市教育委員会臨時会を開会いたします。
本日は、委員会を傍聴したいとの申出がありますので、ここで入室していただきます。
それでは、傍聴者を入室させてください。

(傍聴者入室)

岡田教育長

本日の出席者は5名でありまして、会議は成立いたしております。

なお、本委員会には部長以下、説明員の出席を求めています。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、議案説明及び質疑に対する答弁につきましてできるだけ簡潔におまとめくださいますよう、ご協力をお願いいたします。

日程第1 「会議時間の決定について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本日の会議時間は午後4時までといたしたいと思いますが、異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めまして、本委員会の会議時間は午後4時までと決定をいたします。

日程第2 「会議録署名委員指名について」。

本件は、茨木市教育委員会会議規則第17条の規定により、堀村委員をご指名申し上げますので、よろしくお願いたします。

日程第3 議案第27号「令和3年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書採択について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

加藤学校教育部長

議案第 27 号、令和 3 年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書の採択につきまして、議案説明いたします。

本件は、令和 3 年度に本市立小中学校において使用する教科用図書の採択についてでございます。

まず、小学校教科用図書につきましては、令和元年度に採択いたしましたので「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第 14 条及び同法律施行令第 15 条 1 項に基づき、本年度と同じ教科用図書を採択することとされております。

別表 1「令和 3 年度使用小学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第 9 条関係教科用図書について」を採択することをお願いいたします。

次に、中学校教科用図書についてでございますが、本年度は全ての教科書について新たに採択を行うこととなっております。本市教育委員会では、茨木市立義務教育諸学校教科用図書採択規則及び茨木市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則に則り、まず、令和 2 年 4 月 21 日に茨木市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会選定委員（中学校）及び諮問事項を決定し、4 月 28 日に選定委員の任命及び委嘱と諮問を行いました。

次に、選定委員会での決定を受け、5 月 25 日に調査員を決定し、5 月 27 日に任命いたしました。

選定委員会では、調査員会からの報告等を含めて慎重に審議をいただき、7 月 16 日に教育委員会が選定委員会委員長より答申を受け取りました。答申の中の選定教科用図書とその他の教科用図書については、別表 2 にまとめております。

中学校につきましては、種目ごとに 1 者の教科用図書の採択をお願いいたしますとともに、「学校教育法附則第 9 条関係教科用図書については、必要に応じて採択する。」ことの決定をお願いするものでございます。

以上、よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

岡田教育長

事務局の説明は終わりました。これより質疑を行います。

まず、初めに、小学校教科用図書についてでございますが、小学校教科用図書につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第 14 条及び同

法律施行令第15条1項に基づき、本年度と同じ教科用図書を採択することとされておりますので、別表1「令和3年度使用小学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第9条関係教科用図書について」のとおり、採択することといたしたいと思いますが、異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認め、小学校教科用図書につきましては、別表1「令和3年度使用小学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第9条関係教科用図書について」のとおり採択することといたします。

次に、中学校教科用図書について、協議をしていきたいと思いますが、種目ごとに議論する前に、何かご意見はございませんか。

武内委員

種目ごとの協議に入る前になんですけれども、ユニバーサルデザインに関する事、それから学習者用デジタル教科書に関する事、二次元コードの事、選定外教科用図書の取扱いについてというようなことについて、どのように考えていったらいいのか確認しておきたいと思います。いかがでしょうか。

岡田教育長

それでは、ユニバーサルデザインというふうに出ましたけど、それについて何かご意見はございませんか。

堀村委員

ユニバーサルデザインに関する事では、障害そのほかの特性の有無にかかわらず、全ての生徒にとって見やすく、読みやすいものになっているかということを検討する必要があります。

文字に関してですけれども、各者とも見やすく、読みやすいフォントや大きさにするなど、ユニバーサルデザインフォントについて配慮されているように思いました。

岡田教育長

ほかにございませんか。

篠永委員

ユニバーサルデザインについて、特にカラーですけれども、カラーユニバーサルデザインについては、色の見え方が一般とは異なる子どもたちにも情報が伝わるように、色覚の特性を十分に配慮した見やすいものに変えたり、色だけで情報を伝えないでデザインを工夫したり、それぞれの教科書が配慮しているようでした。

実際に私も含めて協議する中で、色覚体験レンズというのがございまして、それで、折に触れてその眼鏡を通して適切なものなのか、レイアウトが工夫されているのかといったところを確認したりしたんですけども、より明確になるよう枠で囲んだりとか、境目ですね、そういうものを分かりやすくしたりする工夫が、どの教科書にも感じられました。

岡田教育長

ほかになにかございませんか。

片山委員

ユニバーサルデザインに関して、各者の取扱いを見させていただいたんですが、カラーユニバーサルデザインマークがついているもの、また色覚問題の研究者や、あるいは特別支援教育の研究者、こういった方々に校閲を依頼されている、そういう違いは若干ありますが、おおむね各者とも配色、あるいはデザインの検証を十分行って、ユニバーサルデザインについてよく配慮されているというふうに感じております。

岡田教育長

ほかはよろしいでしょうか。

それでは、学習者用デジタル教科書ですね、最近それが出てきております。何かご意見ございますか。

堀村委員

学習者用デジタル教科書に関してなんですけれども、それも各者ともおおむね各教科で学習者用デジタル教科書の作成を予定されているようでした。学習者用デジタル教科書には、拡大、縮小したり、音声表現機能があったり、検索したり、保存したり、共有したりというデジタル特有の機能がありまして、それらを活用してより一層教育活動が充実することが期待できると思いました。

茨木市は、次年度から1人1台タブレットが使えるようになるかと聞いておりますので、ぜひ有効に活用していただきたいなと思いました。

岡田教育長

ほかにデジタル教科書について何かございませんか。よろしいですか。

篠永委員

特に二次元コードですが、今回の各教科書にはQRコードという二次元コードが多数記載されておりまして、堀村委員がおっしゃったように、1人1台タブレットが次年度以降、配付されていくということで、活用の幅が大きく広がると考えられますので、この二次元コードの質といいますか、内容などどういうものなのか、本当に役に立つものなのかというようなことも重視する必要があると思うんですけども、皆さん、どうお考えかなと思います。

岡田教育長

二次元コードが出ましたけど、ほかにございますか。

片山委員

現在、デジタル化時代を迎えて、前回の教科書採択のときも若干、二次元コードがつけられている教科書もございました。今回、多くの教科書で二次元コードがつけられています。そのつけ方にも、目次に掲載されている、あるいは各ページに掲載されているものなど、各者や教科によって、いろいろ差がございましたが、私から見ましたら、各ページにあるほうが、必要な情報にすぐにアクセスでき、見やすいのではないかなということで、そういう傾向がこれから出るのではないかなと思っております。

岡田教育長

ほかにありませんか。

武内委員

今の二次元コードについてなんですけれども、授業で使う場合は、教員が大型テレビに映し出すことができるので、目次から入っていくということでも活用はできると思います。また、教科によっても、必要な場面が違うので、各教科の特性に応じて考慮しながら、配慮しながら使っていくことができると思いますので、そのあたりも考えておく必要があると思いました。

岡田教育長

事前に見ていただいたの一つの確認事項ということで、今ちょっとお話ししていただきましたけど、特にユニバーサルデザインの配慮事項、それから、学習用のデジタル教科書ですね、それから二次元コードにつきましては、各委員が事前に確認をしていただいておりますので、そのことを踏まえて、これから各種目の採択を行うことでよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、選定委員会の答申において、選定外になった教科用図書の取扱いについて、何かご意見ございますか。

堀村委員

選定外となっている教科用図書も確認させていただきました。特徴的なところはたくさんありましたが、どの教科も共通して選定されている教科用図書のほうが、やはりよりいい点が多くて、選定委員会の選定が妥当だと感じました。

特に選定教科用図書は、単元構成や内容のバランスがよく、情報量も適切であり読みやすいと感じました。

岡田教育長

ほかに何かご意見は。

武内委員

今、堀村委員がおっしゃったように、私も同じ意見です。主体的な学びとなるような課題設定というふうになっていて、興味が湧くように工夫されている点においても、選定委員会の選定は妥当だと思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

片山委員

私も皆さんと同じような意見ですが、選定教科用図書を今回拝見させていただいて、資料のほか補充問題もあったりして、自学自習をされる際にも、活用しやすいというような感じがしました。そういう点において、選定委員会の選定は妥当だというふうに感じております。

篠永委員

私も皆さんと同意見で、教科としての学びが深められるように工夫されていること、それから、学んだことをもとに、自分の考えをまとめて発展させていく点や、実生活、将来の生活もあると思うんですけども、生活に活かしたりできるようになっている点において、選定委員会の選定は妥当だと考えます。

岡田教育長

各委員のほうからそれぞれ選定委員会の選定の妥当性についてご意見を頂きましたけれども、皆さん、一応、妥当であるというふうなご意見でございますので、各種目の採択につきましては、選定教科用図書の中から行うということによろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、これから、種目ごとに協議をしていきたいというふうに思います。

まず、国語については、選定委員会では、「東京書籍」「光村図書出版」の2者が選定されております。この2者から、採択する発行者を決めてまいりたいというふうに思います。

各委員のご意見をお願いいたします。

篠永委員

私は、東京書籍、光村図書出版の2者の比較として、学習の見通しとか学習の進め方という観点で、評価してみたんですけど、学習の進め方を比較して、2者それぞれいいところがあって、なかなか難しい比較になりました。

その中で、私が思うに、東京書籍は「単元の扉」というところに、1年生は詩、ポエムですね、2年生は短歌、3年生は俳句などが「扉」に掲載されていて、その題材一つ一つとっても、それだけでもよく考える、自分で考えることができたり、効果があるように思います。

一方、光村図書出版もよかったんですけども、昨今、2年前ですか、地震があったり、毎年のように自然災害があったり、今年はこのコロナ禍ということで、暗い話が頻発している中で、ちょっと気になったのは、1年生の教科書の中に、戦争や平和に関する教材として、具体的には「大人になれなかった弟たちに」というところがありますけども、とってもちょうと暗くて、やはりこういう災害が続く暗い話がある中で、おうちの中や親戚の中で、ご不幸があった方もいらっしゃるかもしれないという気がして、もう少しほかの題材で取り上げてやればよかったのかなという気はいたしました。なかなかどちらもそれぞれ良さがあって、難しいと思いました。

岡田教育長

ほかにご意見は。

武内委員

今、篠永委員からも指摘があったんですけども、この戦争や平和に関する教材というところで、ちょっと心情的になりすぎているというのが光村図書出版のほうなのかな

と思いました。

その点で、同じ1年生ですけれども、東京書籍のほうは原爆の被害で子どものときにいろんな体験をした様子を語りかけるというか、語り部の方が語っておられるような感じで、事実を事実として取り上げているというところ、もちろん光村図書出版についても事実なんでしょうけれども、何かこう子どもたちの心に理論的にというか、そういうことがあるんだと持ちやすいかなというふうに思いました。

それからあと、古文とか郷土教材、どちらもいいなというものがたくさんあったんですけれども、特に東京書籍のほうの平家物語、中学2年生ですけれども、この関連の資料がとても詳しく掲載されていて、絵というか写真というか、それもとってきれいで、いいなというふうに思いました。

ただ、光村図書出版のほうの竹取物語のところでは、貴公子たちの失敗談で終わらずに、そのことからこういう言葉ができたんだよというふうなところまで記述されているというのはすごくいいなと感じました。

あともう一つ、東京書籍のほうで、方言と共通語、これは共通教材だと思いますので、どちらにもあるんですけれども、1年生の「全国グルメ祭りに行こう」というので、子どもたちにとってすごく興味・関心があって、美味しいものについての、その地方の方言というふうな形でつなげていく会話形式になっていて、とても分かりやすいかな、興味が持てるかなというふうに思いました。

以上です。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

片山委員

私は、国語ですので、読み物教材を中心に見させていただいたんですが、東京書籍、光村図書出版どちらも読み物教材は大変充実した内容だったと思います。

2年生の共通教材で、太宰治の「走れメロス」を掲載しており、両者の本文と挿絵の関係なども含めて、見させていただきましたが、どちらかと言えば、東京書籍のほうが見やすい配置関係になっていたと思います。

また、巻末の資料ですが、どちらも巻末資料、補充資料が大変充実しております。た

だ、東京書籍のほうは、論理的な言葉の力、文学的な言葉の力、対話的な言葉の力、そういういったつきたい力を総合的に学ぶことができるような、そういう構成になっていたと思うんです。そういう面で、非常に勉強する上でいいなというふうに感じております。

堀村委員

どちらの教科書も、図書の紹介がされているんですけども、東京書籍のほうは、「読書案内」というコーナーで、教材のテーマに関する紹介図書が多く掲載されていて、読書を促すような、読んでみたいなと思うようなコメントもされていて、生徒が読書を広げることに繋がるのではないかと思いました。

また、ほかの委員も仰ってたんですけども、東京書籍であげられている戦争や平和に関する教材が、生徒と同年齢の中学生の戦争経験を扱っていて、自分のこととして感情移入して、深く心に残るものになっているものと感じました。適切な教材を選んでいると思います。

そのほか、東京書籍のほうは、「学びの扉」というマンガのページがあり、その扉から学びを支える言葉の力というところにつなげて、学年に応じた言葉の力をつけるよう配慮がされていました。

各学年の資料編に、言葉をひろげようというところで、例文が載っているんですけども、ここも語彙を増やすような工夫がされていました。ということで、東京書籍も見やすい構成になっていて、とても優れているなと思いました。

岡田教育長

ほかにご意見はございませんか。

ご意見を聞いていますと、2者ともいいところがある教科書で、甲乙つけがたいというところがございますが、一応、各委員のご意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

先ほど言いましたように、どちらもいいところがたくさんあるんですけど、よりいい

ところが多いというのは、今、ご意見の中では東京書籍という意見が多かったと思いますので、採択する発行者、これを東京書籍というふうに決めたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。何かご意見ございますか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、よりよいところが多いところで、国語につきましては「東京書籍」を採択するということにしたいと思います。

それでは、次に、書写についてでございます。

書写については、選定委員会では、「東京書籍」「三省堂」「光村図書出版」の3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

堀村委員

私はこの選定教科書の3者について、書写で学ぶことが明確になっているかというところで比較してみました。

光村図書出版は、3年間の目標がはじめに示されていて、最後に3年間のまとめというのがありまして、学習したことを確かめられるようになっていると思います。また、目次に工夫がされていて、例えば、「読みやすく書くための楷書」などというタイトルがつけられていて、なんのために書写を学ぶのかということが一番分かりやすいと思いました。

東京書籍のほうも、書写で学ぶことというのがまとめられており、見通しを持って学習を進めることができると思います。

この点、三省堂のほうは、そのあたりについてすこし少ないかなと感じました。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

片山委員

私は、小学校との学びのつながりという点について見させていただきました。その中で、東京書籍、三省堂、光村図書出版、この3者とも小学校で学んだことの振り返りから始まって、そういう学びのつながりがスムーズに行くよう、工夫がされていると感じております。

ただ、若干違いますのは、二次元コードですが、先ほども冒頭でも出ましたが、各者二次元コードがついておりますが、三省堂はそういうアクセスをできる情報が少ないというふうに感じております。

東京書籍は、目次の中に掲載されておりまして、学んでいるところからアクセスに手間がかかるという感じがいたします。

光村図書出版は、それぞれのページに二次元コードがつけられておりまして、見たいときにすぐにアクセスができる。例えば、筆遣いなどすぐその場で確認でき、非常に便利だと感じます。

篠永委員

書写についてはやはり筆運びというところが大事かと思うんですけど、二次元コードについては、片山委員が仰ったとおりです。一方、紙媒体の教科書で筆運びが分かりやすくなっていたかという中では、光村図書出版の1年生の教科書なんですけども、手本の字が大きく示されていて、筆の動きがよく分かるようになっていたと思います。

あと、それと比べてですけども、東京書籍と三省堂は筆運びを示した手本が少し小さいので、より大きいほうが分かりやすいんじゃないかなと思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか、

武内委員

大きい、小さいということで見ていくと、子どもたちが実際に書写で学んだことを生活の中で活かしていくということで、はがきとか封書の手紙の書き方、そういうようなところを見たんですけれども、東京書籍は年賀状だけは実物大でした。それから、三省堂もはがきの書き方は実物大で掲載されていました。

光村図書出版は、手紙やはがきの書き方が実物大、手紙も実物大で書いてあり、とても分かりやすいと思いました。それから、少し面白いなと思ったのは、はがきと年賀状、1枚だけですけれども、切り取って実際に使って出すという活動ができるような工夫がされている。これは手紙やはがきを書く機会に恵まれていない今の子どもたちにとっては、おもしろい取り組みだなと思ったので、ぜひ活用できたらと思いました。

それと、書写ブックというのがあって、ノートのように実際に書き込んでいけるのもいいなと思いました。それから、もう一つは、コラムのところで、UD書体に関するコラムなど子どもたちが興味を持てるような取り組みも掲載されていていいなと思いました。

岡田教育長

各委員のご意見を伺うと、書写につきましては光村図書出版がいいところが多いということをお聞きしました。採択する発行者につきましては、一番いい点が多いというご意見が多かった、「光村図書出版」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、書写につきましては「光村図書出版」を採択することといたします。

続きまして、社会科（地理分野）でございます。

社会科（地理分野）につきましては、選定委員会では、「帝国書院」「日本文教出版」の2者が選定されております。この2者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

武内委員

地理ですけれども、日本文教出版のほうは、チャレンジとか自由研究など、学んだことを使って学習内容を考えることができる点はとてもいいなと思いました。

帝国書院は、導入のところにそれぞれの国旗の写真があり、これはどこの国かというように子どもたちが興味を持ちやすい点がいいなと思いました。

それから、コラムのところですが、SDGsをテーマに取り上げてあって、地域のあり方では、持続可能な社会を目指す一員として何ができるかということについて深く考

えさせられるところがあり、今の子どもたちにとっていいなと思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

私は用語の解説のところでは比べてみたんですけども、日本文教出版は、巻末に用語解説集があり、そこで解説がされており、それに関連したページが記載されています。

帝国書院では、そのような用語解説はないんですけども、巻末の用語一覧から用語解説にアクセスすることができて、本文のところではイラストとか写真を使って分かりやすく解説されているなと思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

各単元のまとめについて比較してみました。帝国書院は、見開きで振り返りがあり、生徒がまとめやすくなっていて、発展的なところまで上手に導くことができるようになってとてもよかったと思っています。

一方、日本文教出版は、1ページでコンパクトにはまとめられてはいるんですけども、まとめの量としては少なすぎるんじゃないかなというふうに感じたところです。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

片山委員

私も篠永委員と同じで、学びの振り返りという点で見させていただいたんですが、日本文教出版は、各節での学習の振り返りというのがあるんですが、地理的名称とか、あるいは用語のまとめ、そういう内容のものを少し考えさせるという面で物足りなさを少し感じております。

一方、帝国書院の振り返りでは、自分はどんなふうを考えているのか、ステップをいろいろ入れて、思考力とか判断力、そして表現力を養うような、そういうような構成になっておりまして、こういう、ここで養われた力というのは、その後の社会生活の中では活かされていくのではないかというふうに思います。

岡田教育長

私も言わせてもらおうと、子どもたちが自分で見つけて自分で考えていく、それがこれからの教育では大事になってくると思いますので、そういう意味でも帝国書院のほうがいいのではないかと思います。

日本文教出版も節のまとめについてはあるんですけど、見方とか考え方が示されてしまっているので、それに沿って子どもたちは考えてしまう部分があるのかなとも、そういうふうにちょっと思います。

ほか何かご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、各委員の意見が出つくしたようですので、協議を打ち切ってよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

今お聞きしていますと、この2者を比較させていただいて、帝国書院のほうがよりよいところが多くあったということですので、採択する発行者を「帝国書院」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、社会（地理的分野）につきましては、「帝国書院」を採択することといたします。

続きまして、社会（歴史的分野）についてです。

社会の歴史的分野につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「帝国書院」「日

本文教出版」の3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

篠永委員

私は、この歴史的分野の各3者で学習のまとめについて比較してみましたが、3者とも学習した内容の確認だけではなく、学習したことを使って考える活動が見開きで設定されているところは同列でよかったとは思いますが、1時間の流れとしては、学習課題が示され、学習内容の確認をし、振り返りとして説明を出来る設定になっているかと思うんですが、中でも東京書籍では、「チェックとトライ」というところがあったと思いますし、帝国書院は、「確認しよう」「説明しよう」というところだったと思いますし、東京書籍は「深めよう」と「確認」というところだったと思うんです。

その中で比較ですけども、一つ前の地理でも同じような傾向だったんですが、日本文教出版のほうは、主要課題の提示と合わせて見方や考え方が既に示されているというところがあったと思うんですね。そこで考え方の方向性が限定されてしまうんじゃないかということがあるので、どちらかと言うと茨木の子どもたちにはふさわしくないんじゃないかと考えています。

岡田教育長

それでは、私も言わせてもらいますと、今の歴史の教育の中では、日本と世界のつながりですね、特に近現代史をどのように子どもたちにしっかり教えていくかということが本当に重要だと思っています。

それぞれこの3者につきましては、歴史を深く理解できるように工夫はされているかなと思います。突っ込んで子どもたちに考えさせている部分ですね、東京書籍は「もっと歴史」、それから、帝国書院は「歴史を探ろう」、それから日本文教出版は「歴史を掘り下げる」です。それぞれ本当に子どもたちに考えさせるようなものが含まれているので、私自身はそれぞれいい部分があるかなと思っています。

ほか何かご意見ございますか。

片山委員

ただいま岡田教育長のほうからも、歴史の中でポイントになるような点ですね、日本と世界とのつながり、そういうことをおっしゃられました。歴史の教科書の巻末に、歴史年表というのがあるわけなんですけど、帝国書院と日本文教出版、この2者については、日本の歩みと世界の出来事、こういう時代の出来事の中に、日本と海外の交流の欄がありまして、海外の国とどのように重なり、どのような影響を日本が受けてきたのか、そういうのが分かる年表になっている。そういう面で、帝国書院と日本文教出版の年表はいいなと思っております。

内容的に、少し面白いのは、帝国書院の「歴史を探ろう」というコラムがあるわけなんですけど、12のテーマで展開されております。非常に興味深い内容のものがありました。例えば、ご紹介申し上げますと、「世界有数の百万都市 江戸」という、そういうテーマがあるんですけど、その中では昔の江戸ですね、葦が生い茂る湿地帯、そういったところを埋め立て造成されて、そこに出来た土地に道路や水道が整備された。そして、住居が建造されて、大都市に発展していった。こういうような流れとか、あるいは人々の生活は物を大切に、生活から出たあらゆるものをリサイクルして、町を清潔に保った現代としても羨ましい、そういった進んだ文化都市だったということがうかがえるわけです。

今も日本は海外の人から美しい、清潔だとよく言われますが、こうした江戸時代の文化が今にも脈々と受け継がれているんだなというふうに感じて、子どもたちにもいい内容のものを提供できるなというふうに感じました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

今のこの歴史というのが、日本と世界とのつながりということに大事にしているということに岡田教育長もおっしゃったんですけども、本当にそのような取り上げ方をされているなと思いました。

特に正倉院の宝物の取り上げ方というのが、私はとても引かれたんですけども、各者とも取り上げているのはもちろんなんですけども、特に帝国書院のほうで、螺鈿紫

檀五絃琵琶の拡大図の写真がすごくきれいに撮れているし、必要なところ、らくだのところが大きく写真に撮られていて、分かりやすく取り上げられていました。また瑠璃坏とか、それから正倉院の校倉造りについても、詳しく載せてあったというのは、よその国から伝わって来たものと日本の良さを兼ね合わせてというようなことに繋がっているの、子どもたちにも理解が深まっていきやすいかなと思いました。

それから、もう一つ気になったのは、拉致問題についての記述が、各者とももちろん取り上げられていて写真も載っているんですけども、東京書籍、日本文教出版のほうは、タラップから降りてこられて、日本に戻ってこられたところの写真が掲載されているんですけども、帝国書院のほうは、喜んで抱き合っているという、その写真がとってもいいなと思いました。

それから、この拉致問題についての最後のまとめ方は、東京書籍のほうは、「北朝鮮の関係は難しい問題です」と終わっています。それから、日本文教出版のほうは、「一刻も早い解決が求められています」となっており、帝国書院のほうは、「さらなる情報開示、帰国が求められています」とまとめられています。どういうことになっているのか子どもたちが前向きに考えていこうという提起がされているんじゃないかなと思い、そのまとめがよかったと思っております。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

帝国書院の「タイムトラベル」という歴史の導入の仕方がすごくいいなと思いました。各單元の中に「タイムトラベル」という各時代の人々の生活が描かれたページがあったんですけども、その時代に生徒自身が入って、学習できるようなわくわくとした感じがあるなと思いました。

また、今を生きる私たちがなぜ歴史を学ぶのかというのが、帝国書院のほうは丁寧で分かりやすく説明されていて、自分自身で考えるように促すような工夫がされているかなと思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

私も帝国書院の「タイムトラベル」に関して、一言述べさせていただきたいと思えます。

とてもいいと思うんです。絵がとてもきれいで、しかも詳細にその時代が切り取られていて、端から端までその時代で、とても没入観があると思いました。それをまた前の時代と比べたり、その時代の様子を考えたりするのに、これがセクションの初めにあったら、すごく引きつけられて、前の時代とこう違うんだなととても感動すると思えます。

岡田教育長

この3者の中で、私も、一つは学習の流れのパターンがある程度出来てきて、子どもたちに歴史の捉え方が分かりやすいかなと。今、中学校のほうはパイ型の授業をしていて、地理と歴史を縦で学んでいく形になっていますので、そういう意味でも、一つパターンが分かりやすいところがいいかなと、帝国書院のほうはそれがあったかなと思っていきます。

ほかに何かご意見ございませんか。よろしいですかね。

各委員のご意見、出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいですか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

社会科の歴史的分野につきましては、各委員のご意見を伺ってますと、歴史の捉え方が分かりやすい、また、先ほど「タイムトラベル」の話がありましたけど、その部分も含めて帝国書院を評価する意見が多かったように思いますが、採択する発行者は「帝国書院」に決めたいと思えますがよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、社会科（歴史的分野）につきましては、「帝国書院」を採択することといたします。

続きまして、社会（公民的分野）についてでございます。

社会（公民的分野）につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「帝国書院」「日本文教出版」の3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

生徒の皆さんが今後、自分たちの町にどのように関わっていくのかということを経験する大変重要な問題なんです。ここでは地方自治と政治参加のところがあっていますが、その中で東京書籍、帝国書院、日本文教出版、それぞれ自分たちの町とどう関わっていくか、そのあたりを深く考えさせるような構成になっており、3者ともいいなというふうに思います。

東京書籍は、具体的に申し上げますと、身近な地域の課題を探して、まちづくりへの提案を考えさせる、こういうような発想が中にあります。

帝国書院は、まちづくりに必要な予算案を組むというような実践的な活動がありました。

日本文教出版は、町の課題を自分が首長になった場合の立場になって、公約にまとめたり、あるいはそれを分析、評価する活動、こういった非常に具体的な内容を深く掘り下げた勉強ができる、そういうような内容になっておりまして、3者ともより生徒に具体的に深く考えさせる、そういう工夫がされていたというふうに思います。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

堀村委員

私は帝国書院の説明が最も正確で分かりやすいと感じました。例えば、3者とも裁判の三審制の仕組みについて載っているんですけども、帝国書院では民事裁判と刑

事裁判を分けて記載されて、さらに三審制についても表が下に示されておりますので、他者より分かりやすいかなと思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

篠永委員

私はこの3つの教科書の内容の程度で比較してみたんですけども、東京書籍と日本文教出版はそれぞれ少し難しい題材があるという気がしております。

まず、東京書籍では、例えば、「ちがいのちがい」というところがあったと思うんですけども、たくさんの「ちがいのちがい」の違う場面があって、一つ一つは確かになるほどそうだというのがあるんですけども、果たしてその一つ一つ、この内容が実際の自分の生活とどれぐらいの距離にあるかということ、あんまりないのでは、でも確かに問題があるよねというような難しいテーマが多かったですね。日本文教出版は、「15歳は大人なのか子どもなのか」という、それも大事なことなんですけれども、実際に子どもたちが公民という教科に対して興味をもてるのかという、少し懸念もありました。

それと、大きく対比して、帝国書院は、例えば公民館という単元では、マンションの騒音問題を解決しようというものがあり、いろんな問題が提示されている。その図を見ただけでたくさん意見が出そうな題材を取り上げていて、公民という教科にアプローチしていると思います。

それに加えて、単元の最初に、全体を見渡すことができるイラストがあるんですね。公民を苦手と思う子どもたちにとっては、取り組みやすい構造になっているんじゃないかなと思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

堀村委員

今、篠永委員がおっしゃった日本文教出版の15歳は大人か子どもかを議論するページに関するところなんですけれども、女性の婚姻についての年齢に関して記載があるん

ですけれども、その記述が2022年に施行される民法改正内容の記述となっているんですけれども、今後改正がなされるというのをどこで分かるのかなと思うと、同じページに小さく掲載された新聞記事を読むしかなくて、ちょっと分かりにくいかなというふうに感じました。

各者、巻末に法律が載ってしまして民法も載っているんですけれども、日本文教出版は民法の改正後のことが掲載されていて、婚姻年齢の改正の施行日が記載されていないので、いつ改正されるのかというのは、そこからは読み取れないようになっています。この点、ほかの2者はどうなっているのかなと思って見たんですけれども、東京書籍は、巻末の民法には改正の施行日が記載されてなかったんですけれども、本文で改正されるということが出ていて、婚姻年齢の改正に関してきちんと言及されていました。

帝国書院も、巻末に掲載された民法に婚姻年齢の改正が2022年から施行されるということがきちんと記載されていて、丁寧に作られているなというふうに感じました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

武内委員

私は、人権の取扱いについてどうなっているかなということを見てみました。東京書籍では、コラムでハンセン病やアイヌ民族、海外の先住民や性の多様性の尊重などの題材があって、考える機会を与えているということが言えると思います。とても今、大事な課題を提供していると思いました。

それから、帝国書院は、アイヌ語への思いや、被差別部落出身の方の思い、それから障害のある方の思いなどのコラムがありまして、取り入れ方が、実際の当事者の作文とか思いが書かれているものを取り上げ、外から見てこうなんだというふうに思うんじゃなく、こんな思いをしている人がいて、その当事者がどう思っているかを知っていくことは子どもたちにとってとても大切だと思ったので、ここに力が入れている帝国書院の取上げ方はいいなと思いました。

それから、日本文教出版は、少しですけれども、点字が出ているページがあって、触ったり出来るというふうなところは、面白い取組みだと思います。

それからバリアフリーについて、具体的に堺市を例に取り上げて、こんなところでバリアフリーが取り組まれていると訴えているんですけども、もう少し深く関わっていただけるような提議の仕方を考えてもらえたらと思いました。

岡田教育長

私も人権のところですけども、今、人権三法が出来ておりますが、その記述がなかったらダメだと思っています。

それで、巻末に法律が載っているんですけど、帝国書院だけがヘイトスピーチ解消法がきちっと載っている。それ以外のところは部落差別解消推進法と障害者差別解消推進法は載っていますが、人権三法がすべて載っているのは帝国書院だけ。子どもたちにはそのあたりはしっかり教えていきたいと思っています。

ほか何かございませんか。

それでは、各委員ご意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

社会科（公民的分野）につきましては、各委員のご意見を伺うと、帝国書院がこの3者の中で比べればよいところが多い、こうした記述もあるということなので、採択する発行者を「帝国書院」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、社会（公民的分野）につきましては、「帝国書院」を採択することといたします。

続きまして、地図についてです。

地図につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「帝国書院」の2者が選定されております。この2者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

武内委員

全体的な構成について見てみたんですけれども、東京書籍のほうは、世界の地形では、深い湖とか赤字で書かれていて、見やすいと感じました。

帝国書院のほうは、鳥瞰図では地域の特徴をイラストに示してあって、とっても興味が持てるなと思いました。あと、帝国書院のほうが大判になっているので、全体的に地図が見やすくなっており、大判になったところが活かしているなと思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

地図なんですけれども、過去100年ぐらいから現時点までの地図で地理を学ぶ、歴史を学ぶという観点が最も大事なんですけれども、地図っていうと、古い地図を一度自分で、何でそうなっているのか、何でこんな地形になっているのかとか、そういう視点もやはりこの地図を選ぶ、教科書を選ぶ一つの視点と考えて、古い地図の取扱いについて私は見てみたんですけれども、東京書籍も帝国書院も、それぞれ特徴的な古い地図が載っており、甲乙つけがたいというのが私の結論なんですけれども、東京書籍を具体的に申しますと、古い地図として西洋から見た日本地図が載っていたと思いますし、昔の出島の地図とか、いろんな視点での地図がありました。一方、帝国書院も、関東地方、近畿地方とかの江戸時代の地図があって、丁寧にきれいに記載されていて、今と比較できるようになっていたりしていて、この観点から言うと、甲乙つけがたく、どちらもいいかなという印象を持っています。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

地図を活用する能力をどちらのほうで養うことができるのかなというところで比べて

みたんですけれども、帝国書院の地図では、地図活用というコーナーが各所に配置されていて、地図活用の技能を身に着けるための取組みがなされていてよいなと感じました。このコーナーでは地図の読図や比較を通して、地図から分かることを整理したり、説明をしたりできるような適切な問いかけがなされていると思います。二次元コードもついているんですけれども、それを読み取ると解答も自分で確認出来るようになっていきますので、自分で学習を進めることができるようになっていきます。

これに対して東京書籍の地図では、ジャンプというマークがあって、関連する資料のページが示されたりしているんですけれども、地図を活用する技能を身に着けるといふ点では、少し効果的ではないように思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

片山委員

私は帝国書院の地図がいいと思います。そう至った点について申し述べたいと思います。

帝国書院の地図ですが、最後のページに非常に大きく日本の領土とか排他的経済水域、こういう水域が非常に正確に示されており、また、イラストで領土、領海、領空の範囲、最近よく耳にいたします接続水域、こういうようなものも示されて、非常に分かりやすくされているなと思います。

また、非常に特徴的なのは、私たちは常日頃、世界の平面の地図を見なれておりまして、丸い地球の裏側にある世界の国とどういう位置関係にあるのか、この辺がなかなか分かりにくいんですが、帝国書院は、日本の地図が世界の国の地図の中に投影されておりまして、どういう位置関係にあるのかというのがとても分かりやすいと、こういう少し特徴的な地図になっておりまして、非常にいいなと思っております。

岡田教育長

ほかにありますか。

篠永委員

片山委員がおっしゃったように、帝国書院はいろんな地図が載っているのがやはりいいのかなと思っています。いろんな国を中心にした地図がたくさん載っていたり、例えば、ヨーロッパが中心のときは、日本は地図の端に位置していたり、グローバルな子どもを育てる意味で、いろんな視点での地図が載っていることは非常に大事かと思います。情報提供の新しさという点で、帝国書院がよかったと思うところがありまして、日本の自然災害について、大阪北部地震などの新しい情報が記載されている。少し前に遡りますと、東北震災のときはそういう話題を載せることが、何かこう配慮してよろしくないんじゃないのかという風潮もありましたが、最近は毎年いろんな自然災害が起こる中で、地元で直近に起こった災害からどう学んでいくかということを知ること、自分で自分の身を守る、そして共助、公助につなげていく、今ではそういう新しい災害の情報がよいテキストになるという意味で、帝国書院は新しかったんじゃないかということを思いました。

岡田教育長

ほか、ございませんか。

各委員、ご意見出尽くしたようですので、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

地図につきましては、各委員のご意見を伺うと、帝国書院を評価するご意見のほうが多かったというように思います。採択する発行者を「帝国書院」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、地図につきましては、「帝国書院」を採択することといたします。

ここで一旦休憩に入ります。コロナの感染予防のために、すこし換気をしたいと思い

ますので、5分間休憩します。後ろの時計で15時15分ですので、15時20分から再開いたします。それまで休憩します。

休 憩（15時15分）

再 開（15時20分）

岡田教育長

それでは、再開をいたします。

続きまして、数学についてでございます。

選定委員会では、「東京書籍」「学校図書」「数研出版」の3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

数学ですが、学んだことを確認したり、深い学びですね、そういうところに結びつけていくという学習の振り返りというのが大切なんです、東京書籍、学校図書、数研出版、この3者とも振り返りがなされており、それはいいと感じておりますが、その中でも東京書籍の話し合って学びを深める、そういう振り返り活動なんです、学習の幅を広げるという意味でいい方法だと感じております。

岡田教育長

ほか、ございませんか。

武内委員

私は、特に今回、新しく入ってきた分野というか学びとしているところを見てみたくてですけども、四分位数とか箱ひげ図ということが高校からおりてきたということで、それをどのように取り扱っているのか見てみました。

そしたら、学校図書のほうは、導入のところで、まだ学習してない、これから学習することについて話し合ってみようというような投げかけになっていて、これはちょっと

難しい問いだなと思いました。

それから、数研出版のほうは、体力テストの新聞記事での導入になっていて、生徒にとってイメージしにくい内容かなというふうなところがありました。ドット図と箱ひげ図の対応はちょっと分かりにくいなとこの2者について思いました。

東京書籍のほうは、導入部分について、コンビニを話題にしてあって、子どもたちの興味・関心が引かれるところだなと、生徒にも分かりやすい内容になっています。それからヒストグラムと箱ひげ図の対応が分かりやすく書かれていたので、そういう意味では東京書籍がよかったかな思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

子どもたち、あるいは先生方が授業というその流れとして、子どもたちが主体的に学習ができるようになっているかという点で比較してみたんですけども、東京書籍や学校図書はそのようになっているんですが、数研出版の特徴的なのは、分冊で自学自習できる、探究ノート別冊だったと思うんですけど、これが数学が苦手な子どもたちに対して、ちょっと難しい内容になっていると思います。授業での活用もなかなか難しいし、この分冊の意味をどう考えるかというところが、茨木の子どもたちにとってはどうかと私は思っています。

岡田教育長

今ちょっとご意見を伺っていますと、数研出版のほうは難しいという、マイナスのご意見がありました。

3者選ばれていますけど、2者に絞ってご意見を伺ってよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、東京書籍と学校図書、2者の比較でご意見を頂いて決めていきたいと思えます。

片山委員

なかなかどちらがいいかというのは難しいですが、特徴の比較をしてみたんですが、東京書籍は全体的にすっきりとしたレイアウトになっておって、表とか文とか非常に分かりやすいと思います。

かたや学校図書ですが、授業での重要ポイントというのが要所要所に分かりやすく整理されておりまして、子どもたちにとっては理解しやすいのかなということです。

そういうことでどちらもいい点があるということで、なかなかどちらがいいかというのは難しいところだと思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

学校図書のほうには、1年生ですけれども、各章の前に振り返りとして、小学校で学習したことというのを取り上げていて、こういうことを学んだかなと振り返っていけるという意味でいいなと思いました。

ただ、東京書籍のほうは、1年のところで1章から始まるのでなくて、0章として算数から数学への導入というようなことがあって、中学になったら数学になって難しくなるというイメージが特にあると思うんですけれども、そういうところをすこし考えてみようということで配置されていることが面白い取り組みだと思って、いいなと思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

東京書籍のほうは、生活に即した身近な題材が多いなと感じました。章の導入部分も、1ページですけれども、すっきりしていて、学習に入りやすくなっていると思います。

これに対して学校図書は、章の導入部分に見開き2ページを使用しているんですけども、情報量が多すぎてすっきりせず、すぐに学習に入りにくいんじゃないかと思いました。

岡田教育長

ほかはどうですか。

篠永委員

2者の比較、なかなか甲乙つけがたいんですけれども、東京書籍のほう新しいなと思ったのが、各学年の巻末に、保護者向けのメッセージというのが記載されております。その内容は、予測困難な社会を切り開くため、家庭と生徒と学校をつなぐ呼びかけになっていて、保護者の方に数学の教科書が呼びかけるという、すごく何か新しい試みでちょっと心を打たれたところなんで、付け加えておきたいと思います。

岡田教育長

ほか、ございませんか。よろしいですか。2者ともなかなか甲乙つけがたい部分もありますけど、今ご意見をお伺いしていると、東京書籍のほうが良いと評価する意見が多かったと思います。

協議を打ち切ります。採択する発行者は「東京書籍」で決めたいと思いますけれども、よろしいですか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、数学につきましては、「東京書籍」を採択することといたします。

続きまして、理科についてでございます。

理科につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「学校図書」「新興出版社啓林館」の3者が選定されております。3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

理科の教科では、実験を伴うというのが通常ですが、この実験についての取扱いについて、3者を比較させていただきました。

生徒たちが安全に実験できるということは必須の条件だというふうに思いますので、

その点について見ました。

学校図書については、「実験室を使うコツ」、こういうタイトルで説明されておりますが、チェックリストが少なく、応急措置についての文字のみの表現ということで若干分かりにくい感じがしました。

新興出版社啓林館につきましては、「実験のチェックリスト」というタイトルで、写真を使って詳しく説明されておりますが、応急措置が複数のページにまたがっているという、取扱上非常に分かりにくいと感じております。

東京書籍は、「理科室の決まり」というタイトルで理科室の心得とやってはいけない三原則、こういうのをきちっと示して、チェックリストや応急時の措置ですね、これをイラストを使って非常に分かりやすく表されています。3者の中では一番そういう面ではよかったかなと思います。

岡田教育長

ほかはどうですか。

篠永委員

理科ですので、レポートの書き方で私は見てみたんですけども、よかったのは東京書籍だと思います。学校図書、新興出版社啓林館も1年生の教科書の中では、レポートの書き方に言及がされており、大切なところは、学校図書では吹き出しや赤文字で記載されている。新興出版社啓林館は、専門的で注釈も少ないため、どうなのかなという印象を持っています。東京書籍は、各学年でそういうレポートの書き方が掲載されていて、注釈で横に記述がなされている。やはりレポートの書き方というのを学ぶ事がひとつ大切な事だと考えているので、その点では東京書籍がよかったと感じています。

岡田教育長

ほか、ございませんか。

武内委員

新興出版社啓林館についてですけれども、二次元コードで見られる動画がたくさんあって、子どもたちの興味を引くような面白い動画がたくさんあります。理科的には、そ

ういう動きがある実際の動画の資料が見れるということは、すごくいいなと思います。有利な点と思います。

それから、学校図書のほうは、巻末にホワイトボードというようなページがついてるんですけども、使い勝手がどうなのかなと思います。アイデアとしてはいいんですけども、学校には発表ボードみたいなホワイトボードがあり、それで出来るので、教科書の後ろにつける必要性はないのではないかと思います。

東京書籍のほうは、A4判のスリムですごく手に馴染みやすく開きやすくて、実験の流れもすごい分かりやすく取り上げられていて、このA4判をうまく活かしているし、これはそこがいいなと思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

堀村委員

各者とも、生徒に化学へ興味を持ってもらうための工夫がなされているなど感じました。コラムについて見たんですけども、学校図書では「サイエンスカフェ」というコーナーがあって、多様な内容が掲載されていますし、新興出版社啓林館も化学コラムとして「部活ラボ」とか「お料理ラボ」とか「お仕事ラボ」など生徒が興味を持ちやすいコラムがたくさん掲載されていました。

東京書籍には、ほかの2者には無かったんですけども、「科学の本棚」というコーナーに、単元に関連した本が紹介されていて、その本を読むことで、生徒が興味関心を広げていけるようになっていました。また、日常生活の中にある化学など、身近なものをつなげて、関心が持てるようになっていました。

どっちも工夫されているんですけども、東京書籍が一番化学を身近に感じて生徒自身が自ら学びたいと思える工夫がされていると思いました。

岡田教育長

ほか、どうですか。

篠永委員

小学校の理科は、観察中心であったりするんですが、中学校の理科になると途端に理科が苦手になってくる子どもたちがいて、それを私なりに考えてみますと、苦手になる瞬間があると思っています。それは、観察主体から化学の公式などの計算に変わる、そこを押さえていなかったら、そこから総崩れになっていく。理科が苦手な子どもを少しでも少なくするという観点で、どう工夫されているかという点で私は見ました。各者ともポイントについて、学校図書では黄色で囲ってあったり、新興出版社啓林館では青で囲ったりしているんですが、その点、東京書籍が卓越していると思ったのは、特に公式でここがポイントって、そのままの言葉が書いてあって、ちょっと参考書的なイメージになるんですけど、もうそこを覚えておかないと、その後、全然だめになってしまう、その瞬間を上手に強調している。つまりかたい、苦手意識を持たない、ここが絶対ポイントだということを強調している。面白いアプローチをしていらっしゃるの東京書籍かと思うんです。

岡田教育長

ほかにご意見ございませんか。よろしいですかね。

各委員のご意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

理科につきまして、各委員のご意見を伺いますと、東京書籍がいいという、評価が高かったと思います。採択する発行者を「東京書籍」と決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、理科につきましては、「東京書籍」を採択することといたします。

続きまして、音楽（一般）についてでございます。

選定委員会では、「教育出版」「教育芸術社」の2者が選定されております。この2者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

堀村委員

教育芸術社の教科書は、巻頭を見ますと、音楽に関わっている著名な方のメッセージがあつて、それを読むと音楽とのいい出会いがあるようになっていと感じました。

また、教育芸術社は、目次とか学習内容の示し方が大変見やすく、何を学ぶのかというのが分かりやすくなっています。これに対して教育出版は、目次、学習内容の示し方が分かりにくいように感じました。

教育芸術社はそのほかにも、鑑賞曲の説明の中に、日本と世界の繋がりが分かるような記載がされているなど、随所に工夫が見られてよいと思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

片山委員

教育芸術社ですが、音楽は世界共通の文化ですが、最初に音楽って何だろうという、そういうページが設けられておりまして、その中で音楽は国や文化によって様々に異なり、そういう形の音楽がある。それぞれにまた、立場、そして音楽と関わることの素晴らしさというものが示されていて、とても良かったと思います。

また、全体的な構成や曲ごとに解説がつけられておりまして、非常にその曲を理解する上でいいと感じております。

岡田教育長

ほかにどうでしょう。

篠永委員

音楽ですので、演奏したり合唱したりという、掲載されている楽譜というのが大事なと思うんですけど、2者を比較したときに、教育芸術社がやはり見やすいと思いま

す。ですので、ちょっと話ながら楽器を弾いたり、歌ってというときも見やすくなっているというのが、教育芸術社なのかなと思うんです。

一方、教育出版社が比較的なとこで新しいなと思ったのは、発展というところで音の三要素というところがありまして、音を振動や手で捉えていっている。今までと違う音楽のアプローチが、はっきり言うと物理を音楽に取り入れているというか、そういう今までなかった視点が、そこに埋め込まれている。今までしたことのない視点で物事をしていくというのは、これからの子どもたちに大事だと思います。その点は非常に新しいところかなと思いました。楽譜が見やすいというところは、やはり圧倒的に大事だと思いますので、教育芸術社のほうが子どもたちにはいいのかなと思います。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

武内委員

私も教育芸術社のほうがいいなと思いました。それは、目次を開けたときに、今からこういう曲を1年間で学んでいくんだなということが、分かりやすいと思いました。

それから、表紙を開けて人物がメッセージを入れてあるというところも、すごく身近な人たちのメッセージが入っているというのもすごくいいなと思いました。

それから、曲としても、例えば「Let It Be」とか、割と馴染みのある曲がたくさん掲載されています。それから、ポピュラーな音楽、ジャズとかボサノバとか、いろんなジャンルにまたがって今の新しい感覚の音楽とかも取り上げられているというところがいいなと思いました。

それから、その曲にまつわる写真も、とてもいいものがうまく取り上げられていると思います。これは共通教材だと思いますが、「モルダウ」の写真を見ると、その街や川の雰囲気が見えやすい写真を取り上げているなと思いました。

それから、1年生の「ふるさと」、これも共通教材だと思いますが、この曲についても、とてもイメージが湧くような取り上げ方がされていると思います。そういうところで、教育芸術社のほうがふさわしいと思いました。

岡田教育長

ほか、ございませんか。

それでは、意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切ってよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

音楽（一般）につきましては、各委員のご意見を伺いますと、教育芸術社のほうがうまくまとめられていて分かりやすいという評価が多かったように思いますので、採択する発行者を「教育芸術社」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、音楽（一般）につきましては、「教育芸術社」を採択することにいたします。

続きまして、音楽（器楽合奏）についてでございます。

選定委員会では、「教育出版」「教育芸術社」の2者が選定されております。この2者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

篠永委員

器楽ですが、どちらも難しいとは思いますが、器楽というと、やはり実際に演奏しているところを見ることが出来る動画のコンテンツが大事かなと思ってはいるんですけども、わずかな差かもしれませんが、教育出版のほうが充実しているかなという印象を受けました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

教育芸術社のほうが音楽の教科書と同様に、目次がとても見やすく、学んでいく、習っていく、歌っていく、演奏していく内容がよく分かるなどと思います。メッセージは教育出版のほうにも掲載されているんですけども、分かりやすさということでは、教育芸術社のほうが優れていると思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

片山委員

教育出版ですが、和楽器の演奏というものについては、丁寧に説明されていて、いいとは思いますが、授業でよく使うリコーダーについては、教育芸術社は非常に奏法が詳しく説明されています。そして、また、使った後の楽器の手入れについても触れられておまして、非常に丁寧な内容だと思います。そういう点で、教育芸術社のほうが内容的に良かったのではないかと思います。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

堀村委員

打楽器についてなんですけれども、打楽器は合奏など授業で実際に演奏する楽器として使うことが多いと聞いたんですけれども、打楽器については、教育芸術社のほうが取扱いが丁寧で、取り扱っている種類も多く、授業で使いやすい内容だと思います。

岡田教育長

ほかにご意見ございませんか。よろしいですか。

意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

音楽（器楽合奏）については、各委員のご意見を伺いますと、教育芸術社の評価が高かったと思います。採択する発行者のほうを「教育芸術社」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、音楽（器楽合奏）については、「教育芸術社」を採択することといたします。

続きまして、美術についてでございます。

美術につきましては、選定委員会では、「開隆堂出版」「光村図書出版」「日本文教出版」の3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

片山委員

3者のうち光村図書出版ですが、少し印象的に感じましたのは、和紙のような紙ですね。ほかのページとは違う紙で、手で触って体感できるようになった、そういうページがありまして、これは一つのおもしろい試みだなと思います。

3者から見て、その中で一番良かったと思いますのは、日本文教出版です。これは非常に大判で、表紙と巻頭のテーマ、こういうのが非常にうまくマッチングした教科書になっておりまして、とてもいいなど。例えば、1年生では、「美術との出会い」という、そういうテーマ設定で、作品の見方や感じ方が広げられるように、フェルメールという有名な「真珠の耳飾りの少女」という、こういう絵が原寸大で飾られておると。また、2、3年生では、「学びの実感と広がり」あるいは「学びの探究と未来」というようなテーマが設定されている、そういうことに合った作品が表紙を飾っておりまして、子どもたちを美術の世界に真っすぐ導いてくれるような、そういう教科書だったと思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

この3者ともですけれども、「ゲルニカ」の絵が取り上げられているんですけれども、この絵がすこし小さいのは開隆堂出版なんですね。ところが、「鳥獣戯画」の絵巻物は、何か絵巻物としての良さを発見できるような上手い構成になっているなと感じました。その点は開隆堂出版がよいと思いました。

それから、光村図書出版も「ゲルニカ」、「明日への願い」が作者の表現の意図や工夫を感じられるように教材に取り上げられていました。それから、特設ページとして作品が大きく掲載されていました。

同じ「ゲルニカ」の部分について、日本文教出版がすごくいいなと思ったのは、ピカソの言葉が載っています。それは「私は対象が見えるようにではなく、私が見たままに描くのだ」という、そういう美術の神髄というか、どのように絵を描くか、作品を作っていくかという一つの観点として、どうしても写実的に描かなければと思いがちな生徒が多いと思うんですけれども、そうじゃないよということを発表するような言葉があって、これはいいな、子どもに考えさせられるなと思いました。

それから、同じく日本文教出版の中で、特設ページとして浮世絵なんかも原寸大で作品が取り上げられており、日本文教出版の作品に対する思い、子どもたちに対する思いというものが伝わってきて、とてもいいと思いました。

岡田教育長

議事の途中でございますけど、定刻が迫っておりますので、時間の延長を行ってもよろしいですか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めまして、本日の会議時間を延長いたします。

ほかにご意見ございませんか。

堀村委員

各者とも鑑賞する活動を促すように工夫されているんですけども、日本文教出版は鑑賞する活動をすべての単元で設定されていて、武内委員がおっしゃったように、私も作品が特に美しく大きく掲載されているように思いました。

作者の製作の意図も多く掲載されていて、生徒が興味を持ったり、自分自身の製作に役立てられるヒントになるようなものが示されていると思いました。

また、美術を使って自分を表現したり、社会でどのように美術が活用されているのか、美術の力というものが分かるような構成になっており、優れていると思いました。

篠永委員

日本文教出版がよろしいんじゃないかと僕も思っています。やはり圧倒的に全体を通して絵が大きいというところで、3冊になっている良さを存分に活かしていらっしゃるかなど。屏風を実際に折って体感できるような工夫もあったんじゃないかなと思います。私は日本文教出版のほうが優れているのかなと感じます。

岡田教育長

各委員のご意見、出尽くしたようですけども、協議を打ち切りましてよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

美術につきましては、各委員のご意見を伺うと、日本文教出版を評価する意見が多かったように思います。採択する発行者を「日本文教出版」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、美術につきましては「日本文教出版」を採択することといたします。

次に、保健体育に入ります。

保健体育につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「大修館書店」「学研教育みらい」の3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

堀村委員

連日暑い日が続いていまして、生徒たちが自分の身を守るため知っておいてほしい知識として、熱中症に対する対策というのがあると思うんですけども、選定教科書はいずれも適切な記載がありました。

東京書籍は熱中症の手当てについて、フローチャートを使って、どのような症状でどのような対策をしたらよいかを分かりやすく記述されていました。

大修館書店も熱中症の手当てがフローチャートで記載されていて、実践的だと感じました。

学研教育みらいも、熱中症の手当てをフローチャート記載された上で、真夏ではないのになぜ6月に熱中症にかかる人が多いのかを考えるコーナーなどもありまして、予防についての記述がありました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

篠永委員

熱中症は毎年問題になるので、想定内なんですけれども、この3者で、どの教科書もそうだったとは思うんですけども、今年の新型コロナウイルス感染症を想定して作った教科書会社はいらっしゃらなかったと思うんです。そういうことが起こっている観点から、恐らく来年も付き合いがなかなかいけない感染症、その感染症の単元がどうなっているかという視点で私は見てみました。

スタンダードなところは、どの教科書ももちろん漏れることなく記述はされているんですけども、特に今のコロナウイルスのことを考えて、よくないなと思ったのは東京書籍の空気感染と飛沫感染についてです。ある程度の記述はしっかりあるんですけど、

接触感染のことについて、大きく扱われていないというのは、この新しい時代にはよろしくないかなと思うんです。

大修館書店も、もちろん感染経路の記載などがある。感染経路を知っておかないと、感染経路を断てない。予防にはなりませんので。

さらに発展的でよかったのが、学研教育みらいだっただけではないかなと思っています。もちろん感染経路の記載はあるんですけども、それ以外に、動物由来の感染についてという感染症のところ、図の写真なんですけども、昨今ペットを飼われているご家庭が多いので、興味を持つ子どもたちが中にはいるんじゃないかなと。つまり獣医師を目指したくなるような子どもたちが出てくる可能性があるんじゃないかなという、そういう専門的な学びへ、知らず知らずに橋渡しをしていらっしやっただのが学研教育みらいであり、このコロナの事態にちょっと弱いと思ったのが東京書籍の感染症の部分です。そういう印象を持っています。

岡田教育長

ほかはどうですか。

片山委員

ただいま篠永委員から感染症、接触感染とか、そういう言及がされました。私も接触感染の中で、今の子どもたちに伝えていかなければならない課題として性感染症というものも大きな問題だと思っています。

各者とも性感染症の内容と予防について詳しく記述されておりますが、予防について、東京書籍の場合は、感染予防の見地から、自分はどうしたら防げるかということで、自分を中心にした、そういう記述があります。

大修館書店と学研教育みらいは、感染の場合は相手のこともありますので、感染の相手のことも配慮した、そういう記述になっていたということで、この2者については、よりいいなと思っています。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

それに関連あるとは思いますが、性教育について各者ともいろいろと分かりやすく取り上げられていると思います。ただ、本当に子どもたちが知りたいんだけど、こんなこと誰にも聞けないとか、大人もここは伝えておかないといけないけれども、どう伝えたらいいのかが分かりにくいということに関して、大修館書店も、学研教育みらいのも、Q&Aであったり、カウンセリングルームという部分であったり、そういうことを取り上げて分かりやすく回答されて、説明されているというところが見られました。

東京書籍の場合は、その2者と比べて、すこし物足りないかなと感じました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

武内委員の言及なされた性教育のところでは、学研教育みらいは、卵子や精子の写真が大きく載っていてよかったと思いますし、実際の写真もあって、いろいろ解説されているところがより実感できていいんじゃないかと思いました。

岡田教育長

ほかご意見ございませんか。

堀村委員

薬物乱用に関してなんですけれども、例えば中学生も問題になることがあるので、喫煙や飲酒と並んで十分な記載が必要かと思うんですが、大修館書店や学研教育みらいは、覚醒剤や危険ドラッグの写真が載っておりイメージしやすくなっています。実際に危険ドラッグを言葉で知っていても、実際にどのようなものかイメージできなければ、危険ドラッグと分からずに手を出してしまう危険があると思うので、この点はとても大切だと思いました。

これに対して東京書籍は、覚醒剤の写真はあるんですけれども、危険ドラッグの写真はなくて、危険ドラッグをイメージすることができなくて、基本的な学習にとどまってしまうのではないかという気がしました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

片山委員

ただいま堀村委員から、覚醒剤や危険ドラッグのお話が出ましたが、これの乱用については大きな問題なんです。各者それぞれ、こういうものが始まる要因とか、その対処法についての内容が記述されております。その中でも学研教育みらいは、「実習のコーナー」というのもありまして、そこで誘いを断るロールプレイ、こういう自衛方法を体験的に学ぶことができるようになっております。各者とも対処方法が記載されているわけですが、学研教育みらいがそういう実践的な内容のものになっているということで、一番いいかなと感じております。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。ございませんか。

意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

保健体育につきましては、各委員のご意見を伺っておりますと、学研教育みらいを評価する意見が多かったように思います。採択する発行者を「学研教育みらい」に決めたいと思いますがよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、保健体育につきましては、「学研教育みらい」を採択することといたします。

続きまして、技術・家庭（技術分野）につきましては、技術分野につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「開隆堂出版」の2者が選定されております。この2者から、

採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

堀村委員

まずはガイダンスにおいてなんですけれども、ガイダンスにおいては開隆堂出版も技術の役割や考え方が示されているんですけども、東京書籍のほうは、技術は夢を叶えるためにあるという、技術を学ぶ目的が明確に示されていたり、技術の見方・考え方を示すのに仕掛けのページが設けられていたり、マーカーを取り入れるなどして、生徒の興味を引く工夫がなされていると思いました。

しかし、知的財産権についての取扱いを比べてみたんですけども、開隆堂出版は知的財産権保護の活用として取り上げられていて、知的財産権の種類や日本における著作物利用の手順が図で示されるなど、分かりやすい工夫がなされているのに対して、東京書籍も扱いはあるんですけども、主に文章のみで説明されているため、少し分かりにくいかなど感じられました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

片山委員

技術の関係で、情報の問題があるようですが、今日、情報のデジタル化が非常に進んでおります。そのおかげで生活が非常に便利になっているという、その反面、いろんな問題も生じてきております。その中で、SNSなどの情報モラルというのが今大きな問題になっておりますが、東京書籍、開隆堂出版、両者ともそれぞれ事例をたくさん挙げて漫画などを入れて説明されていると、そういう点で、両者とも良かったんですけども、一つデジタル化という、非常に技術的な問題についての説明なんですけども、これは開隆堂出版のほうで系統立てて詳しく説明されているので、子どもたちにとって分かりやすい内容になっていたと感じております。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

篠永委員

技術ですから、1つの大事な分野として新しくプログラミングをきちっとしていただきたいと思うんですけども、どちらかというとな開隆堂出版のほうが良かったと思います。東京書籍は、プログラムとしての処理が初学者にとってすこし分かりにくいんじゃないかなと思って、対する開隆堂出版の同じセクションのところを見ますと、プログラムを作るための3つの基本をですね、それを打ち出して、簡潔に分かりやすく示されているというところによかったんじゃないかなと思っています。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

全体的に見まして、これからの社会を考えていくと、情報の技術に関することも大切で、皆さんがおっしゃったように、関心が高くて、どちらもそれぞれに工夫をされているなと思います。

ただ、東京書籍のほうは、説明がとっても丁寧で、詳しく情報量がたくさんあるんですけども、今のこの授業時間を考えると、あまりにも情報量が多すぎて、本当は大事なんですけども、こなしきれないんじゃないかというふうに感じます。

開隆堂出版のほうは、大事なポイントが絞られていて、内容がきちっとまとまっていると思います。例えば農業的なところで、いろんな植物を育てようというところがあるんですけども、たくさん列挙されても出来るのかなというところもあったりして、ポイントがきちっと絞られているほうが使いやすいと思いました。

岡田教育長

ほかございませんか。よろしいですか。

各委員の意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切りましてもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

技術・家庭（技術分野）につきましては、各委員のご意見を伺いますと、開隆堂出版を評価する意見が多かったと思いますが、採択する発行者を「開隆堂出版」に決めたいと思いますがよろしいでしょうか。

（各委員「異議なし」の発言あり）

岡田教育長

それでは、技術・家庭（技術分野）については、「開隆堂出版」を採択することといたします。

続きますは技術・家庭（家庭分野）についてでございます。

家庭分野につきましては、選定委員会では、「教育図書」「開隆堂出版」の2者が選定されております。この2者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

篠永委員

家庭科ということで、食生活について比べたんですが、その中でやはり昨今はアレルギー対応について留意しないとイケない状況だと思っています。もし自分にアレルギーがあれば注意しないとイケないですけども、一緒に作るグループの中にアレルギーの子がいたり、アレルギー物質となりうる食材を使うような場面があったらという、そういう視点から、開隆堂出版のほうは調理実習の材料の一覧全てにアレルギーの物質となりうるものが黄色で示されていて、これは非常に有益で良かったと思っています。

教育図書のほうは、調理実習で食物アレルギーの材料が書いてはあるんですけども、少しはっきりしてないところがあります。だけれども、教育図書のいいところは、例えばハンバーグを作るときに卵アレルギーがある場合、卵の代わりに片栗粉とかジャガイモを擦ってハンバーグを作ることが出来るというように、代替方法の記載があるというところは良かったと思うんですけど、やはり材料の一覧で気をつけないとイケないということが分かりやすく記載されている開隆堂出版のほうの方がよかったですと考えました。

岡田教育長

ほか、どうですか。

片山委員

篠永委員から調理実習の話が出ましたが、両者の調理実習のところを見ておりますと、開隆堂出版のほうは写真が非常に大きくて、調理の手順が横に展開されているということで目を移しやすく、非常に見やすいレイアウトになっていると思います。

また、その下に、調理方法のQ&Aがつけられておりますが、料理のポイントとか重要なことが分かりやすく解説されていて、非常に勉強になると思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

武内委員

同じ調理のところですけども、いろんな材料を量って調理をしていくんですけども、開隆堂出版のほうで、量る方法のひとつとして手秤りが提案されていて、この手に乗るなら何グラムということを感じとして知っておくということはすごく大切だなと。例えば、塩をひとつまみというのは一体どれぐらいなのだろうとか、いちいちお家で調理するときに、台秤りとかを出してきて量らなくても、感覚的にこれだけ使えば、これぐらいの味になるということを知っていくというひとつのヒントとして、これはすごく面白いし、大切なことだと思いました。

あと賞味期限と消費期限の違いについて、分かりやすくまとめられているというのが開隆堂出版でした。教育図書のほうも、記述はされているんですけども、開隆堂出版のほうで分かりやすいかなという気がしました。

それが食生活に関してのことなんですけれども、その次に、家庭生活とか衣服とか、そういうことについて着目して見たんですけども、教育図書のほうは、実は今、子どもたちが作品を作るのに、マスクの作り方が一番話題に上がっている。マスクをこんなふうに作れるよということが載っている、これはこの時代を先取りされたのか、前から載っていたのかちょっと分からないですけども、なかなか面白いなと思いました。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

武内委員

教育図書ですけれども、今の子どもたちの生活状況を見ましても、様々な家庭の状況があるんですけれども、家族ということに対して、すこし固定的なイメージを子どもたちに持たせてしまうような感じがしました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

堀村委員

幼児との触れ合いについては、教育図書のほうが安全衛生に関する注意点が詳しく説明されていていいなと思ったんですけれども、武内委員がおっしゃるように、多様な家族のあり方について記載がないように思いました。

その点、開隆堂出版のほうは、家族関係の変化についても取り上げられていて、多様な家族のあり方があることが分かるような記載となっており、いいと思います。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

片山委員

現在、人間関係とかあるいは社会とのつながりというのが非常に希薄化しているということが、大変心配されているんですが、家庭生活と地域との関わりというところで、開隆堂出版は高齢者、障害のある方、外国の人、LGBTの人、非常に多様な人について取り上げており、その関わり方をどうすればよいか詳しく記載されているということで、非常に進んでいるなと思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

武内委員

今、片山委員がおっしゃったように、開隆堂出版のほうが、様々な家庭環境があるよ
ということを確認するというか、前に出しているので、そのほうがいいと思います。固定
的に過去の家族はこんなもんだという観念にとらわれない、これからの家庭環境とい
うのがどう変化していくかということに目を向けることが出来るという意味で、開隆堂出
版のほうがいいと思いました。

岡田教育長

ほかよろしいでしょうか。ありませんか。

意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切りましてよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

技術・家庭（家庭分野）については、各委員のご意見を伺っておりますと、開隆堂出
版を評価する意見が多かったと思います。採択する発行者を「開隆堂出版」に決めたい
と思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、技術・家庭（家庭分野）については、「開隆堂出版」を採択することとい
たします。

続きまして、英語についてでございます。

英語につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「三省堂」「光村図書出版」の
3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

武内委員

この3者とも、やはり今求められている対話というか、対話的な構成というか、そう

いう授業はなされるようになっていて、甲乙はつけがたいです。あと、取り上げられている題材についてですが、東京書籍のほうは、元大統領のオバマさんが出てこられたり、とても記憶に新しいと思うのでいいと思います。それからガンジーさんとか、キング牧師、マンデラさんの話も3年生にあたりして、子どもたちの興味を引くというか、学んでいくのにふさわしい題材だなと思いました。

それから、三省堂のほうも、「星の王子様」とか子どもたちがよく知っている昔話を英語で取り上げられているので、そのあたりは子どもたちが、「あっ、これ知ってるよ」というふうなことで、英語ではどういうふうに表示するんだというのを学んでいこうというふうにつながっていいなと思います。キング牧師のことなど、出ている題材も豊富に取り上げられていて、いいなというふうに思います。

それから、光村図書出版についても、小学校の国語で習ったことが英語で書かれていて、英語でこれを読んでいったら、どんなふうになるかなというので、学んでいこうという意欲を高めるために繋がっているんじゃないかなと思って、いいなというふうに思いました。どの者もいいところがたくさんありました。

岡田教育長

ほか、ございませんか。

片山委員

小学校でも英語学習があるんですが、その小学校の英語学習との接続を各者とも意識して、導入でいろいろと工夫されているところでございます。

光村図書出版を拝見いたしますと、巻末に小学校で習った単語が区別して記載されておる、そういう工夫がされております。

東京書籍では、巻末だけではなく各ページにも記載して、習った単語が分かるように、接続に配慮されたレイアウトになっていたと感じております。

岡田教育長

ほか、ございませんか。

武内委員

三省堂の中でいいなと思ったのは、「クラスルーム イングリッシュ」が導入のところにでてきて、小学校で子どもたちはこの分は習っていると思うので、繋がりがすごく意識されていて、小学校で習ったことから中学校へ繋がっているというのがすごくいいなというふうに思いました。

それから、小学校で習った英単語も、それぞれ各ページに載っているのも、このあたり親しみが持てて、学んでいく意欲に繋がっていくかと思って、三省堂がいいと思いました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

篠永委員

私は各3者の文法の記載について、ちょっと比べてみたんですけど、光村図書出版は、セクションの途中とか終わりに文法が載っていて、まとまっていない、散りばめられているみたいな感じがしました。

いいなと思ったのは東京書籍で、各セクションの終わりに、文法のまとめがきちっとあって、本の大きさを上手に利用して、簡潔に分かりやすく十分な量でまとまっていると思いました。

一方、文法だけなのかもしれませんが、三省堂は、文法のまとめがセクションの最後にまとめてあるんですけど、これだけでいいのかというぐらい少しあっさりしていて、文法に関しても大事だと思うので、そういう意味では東京書籍のほうがまとめというところではよかったと思います。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

堀村委員

東京書籍の1・2年生の教科書に「ワードルーム」というコーナーがあるんですけども、そこには英単語だけじゃなくて、イラストも載せられていて、このようなところ

にも中学生の興味を引いて学習ができるという工夫がされているのではないかなと思いました。

岡田教育長

ほか、どうですか。

片山委員

先ほど文法のお話も出ましたが、東京書籍は、会話、文法、ライティング、いずれも上手くバランスよくレイアウトされている。最初のほうから順番にやっていくことで、バランスよく学ぶことが出来る、そういう流れのレイアウトになっており、勉強しやすい、読みやすい教科書だと感じております。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

篠永委員

東京書籍には、他者には無いいいなと思う「学び方コーナー」というコーナーが各学年にありました。単語の綴りとか、発音、音読の仕方とか、語彙や表現の増やし方などの英語の学び方ですね、文法的なところ、そういうことが丁寧にあるということが新しい構成になっていたかと思います。

岡田教育長

それぞれいい点、いろいろ出していただきました。ほか、ございませんか。

それでは、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

英語につきましては、各委員のご意見を伺いますと、最後のほうでも東京書籍のほうがいいところが多く見られるというのが重なってきていますので、東京書籍を評価する

意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「東京書籍」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、英語につきましては、「東京書籍」を採択することといたします。

続きまして、道徳についてでございます。

道徳につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「光村図書出版」「日本文教出版」の3者が選定されております。この3者から、採択する発行者を決めてまいります。

各委員のご意見をお願いいたします。

堀村委員

構成について見てみたんですけれども、東京書籍は1年間で学ぶこととして、4つの内容項目が分かるようになっていました。日本文教出版も1年間に学ぶこととして、テーマごとに分けられていて、工夫がされていると思います。光村図書出版は、1年間で3つのシーズンに分けて、シーズン毎に振り返ることができたり、シーズン毎にもテーマを決めていて、1年間を通して成長を感じることができるような構成になっていて、最も優れていると感じました。

岡田教育長

ほか、どうでしょうか。

片山委員

3者とも教材の冒頭に、内容を表すキーワード、あるいは項目が示されておりまして、子どもたちが見通しを持って取り組みやすい、そういうようなレイアウトになっていたと思います。

また、3者は、教材において子どもたちに考えさせるような、そういう発問が後ろのほうで用意されておりました。これはそれなりにいいです。

ただ、ちょっと気になりましたのは、日本文教出版は、どちらかと言えば正解を求め

るような問いかけ方になる、そういうことが少し気になったところです。

それに比べまして、光村図書出版、これについては他者に比べまして発問に広がりを感じました。「見方を変えて」という発問では、視点を広げて、いろいろな価値観の意見が出せるようになっていました。また、「つなげよう」というところでは、学んだことを自分に繋げて、自分の身に振り返って考えましよう、というようなことをしているということで、そういう発問が非常に良かったと思いました。

岡田教育長

ほか、どうですか。

武内委員

今の発問について、それに対して自分の考えを伝えていくという観点から見ましたが、東京書籍の場合は、巻末に心情円というのがあって、自分の気持ちを、今こういう気持ち、これぐらいという表現ができるような心情円があります。話し合うときに、私はこうだ、あなたはどうですかみたいなことで活用できるだろうなと思います。

それから、日本文教出版のほうは、別冊ノートがあって、これは自分の考えをはっきり口に出して伝えるというふうな、そんなことが苦手な生徒に対しては、そこへ入っていくというふうなことで、とても有効に使えばいいかなと思います。しかし、発問が固定されているところがあって、投げかけられた発問に対して、どう答えるかというのがちょっと決まりきってしまうかなという気がして、ちょっとこれは残念な点でもあります。

それから、同じく光村図書出版については、巻末に「学びの記録」というところがあって、これがとってもスペースが小さいんですけども、必ず毎時間、学んだことを振り返って書くというふうな、自分の言葉で書ける、スペースは小さいんですけども、小さい字で書けばたくさん書けるし、一言で終わらせる子は一言で終わらせられるしということで、使うには使いやすいかなと思いますので、道徳の場合は、課題というか、発問に対して固定的に答える、こう聞かれたらこう答えるじゃなくて、自分の考えを素直に表現出来ることが一番大事だと思いますので、光村図書出版のそれぐらいの小さなスペースに自分の考えを自分の言葉で書くという意味で活用できたら、これはいいなと思いました。

篠永委員

片山委員が先ほど発問についておっしゃたように、正しい正解が無いものだと思うんですけども、そういう深く考えることが出来るよう後押しすることが出来る教材が多いのが光村図書出版でとても良かったと思います。

東京書籍も、いじめに関して絵からいじめを見つけだそうという教材を扱っていて、比較的敷居が低い導入的な教材という印象があります。

残念だったのは、日本文教出版ですけども、いじめの構図というチャートがあって、その中でそれなりの理論があって、その趣旨で図を載せていらっしゃるわけなんですけれども、初学者がぱっと見ると、いじめを見て見ぬ振りをする人と、いじめを止めようと行動する人が、いじめられている当事者から遠い同心円のところ、同じところに立っていて、何かどっちも責任ないのかなというような、同列に扱われていると誤解を招いてしまうようなことがあったと思うんで、そこがすこしよろしくないかなと思いました。

岡田教育長

ほかにご意見ございませんか。

今、茨木がこれから進めていく教育について、5年の計画を立てているんですけども、その中で、中心は非認知能力、それから支援教育も含めて、これを中心に5年間の計画を今立てているところです。

その中で、この道徳をどう位置づけるかというところでは、非認知能力というのは、やはり自分でしっかり考えて生きていくというところを、子どもたちの中で培って欲しいなと思っています。それぞれいろんな意見を聞かせながら、自分だったらどうするのか、自分で考えて行動するというか、そういう力をやはりつけてほしいというように思います。

そういう意味で、3者とも読ませていただきましたけども、この自分で考えて、深く考えるような教材が光村図書出版の中にあっただと思っています。

ほか何かご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

道德につきましては、各委員のご意見を伺うと、光村図書出版を評価する意見が多かったように思います。採択する発行者を「光村図書出版」に決めたいと思いますがよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、道德につきましては、「光村図書出版」を採択することといたします。

次に、中学校における学校教育法附則第9条関係図書についてであります。提案者の提案のとおり、「必要に応じて採択する」ということでよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、中学校における学校教育法附則第9条関係図書につきましては、「必要に応じて採択する」ことといたします。

他にご質問はございませんか。

それでは、お諮りいたします。質疑を打ち切りましても異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めます。

よって「議案第27号」は、以上のように可決いたします。

以上をもちまして、本日の議事日程は全部終了いたしました。

令和2年第10回茨木市教育委員会臨時会を閉会いたします。

長時間ご苦労さまです。

(16時36分 閉会)

以上会議の顛末を記載し、茨木市教育委員会会議規則第17条によりここに署名する。

令和2年8月20日

茨 木 市 教 育 委 員 会

教 育 長 _____

署 名 委 員 _____